

ティーチング・ポートフォリオ(教育業績ファイル)

教員氏名	白川 ゆう子
主な担当科目	音楽療法各論Ⅲ, 音楽療法各論特殊講義Ⅲ
シラバス	ここをクリック(本学ポータルサイトトップページが表示されます。) ※画面下「シラバス」>「シラバスを検索するにはこちらをクリックしてください。」をクリック
2023年の 教育目標・授業に 臨む姿勢	2023年度に初めて担当する科目が2科目ある。1つはメディア授業(フルオンデマンド)であり、音楽療法の初学者のための授業である。メディア授業の特性を活かして学生たちが何度も復習できるような、より良い教材を作ることに力を入れたい。もう1つは修士論文執筆の指導を行う科目である。学生の研究をしっかりサポートできるように努めることが2023年度の大きな目標である。
2023年の教育に関 する自己評価	メディア授業の教材作成については、学生にとってなるべく分かりやすくなるように作成できた。対面で講義を行う以上に、様々な情報を盛り込むことができ、メディア授業の特性をうまく活用できた点良かった。修士論文執筆指導については、事例研究であったため、音楽療法上級実習とも連動させることで、実践と研究の両方を関連付けて指導することができた。それにより、事例研究の方法をしっかりと伝えることができた点良かったと考える。
2023年のFD活動 に関する自己評価	音楽療法の学内組織FD研修会では、開催案内、会場の手配、資料作成、議事録作成などの事務的な手続きを行った。音楽療法の学内組織FD研修会は、特に音楽療法に特化した教育や、資格に関わるカリキュラムについて検討することができた。 全体FD研修会では、様々なご専門の先生方の授業の取り組みや学生への関わり方などを伺うことができ、先生方の様々な工夫やご努力を知ることができた。
授業改善のために 取り入れた研修内容	音楽療法士の国家資格化に向けて、今後日本音楽療法学会のカリキュラムガイドラインが変更になる情報を主査から共有していただいた。カリキュラムガイドラインの変更や、セメスター制への移行によって、本学の音楽療法コースの教育をどのように変革させていくかを先生方と話し合うことなどができた。これについては、2024年度も引き続き検討していく必要がある。

2023 年度(後期)「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード:1801 教員名:白川ゆう子

1)アンケート結果に対する所見

全体的な結果を受け、皆さんがきちんと授業に出席し、皆さんの識見が広がったことが分かった。特に「音楽療法アンサンブルⅡ」では、全員が出席状況は良いと思うと答えていた。皆さんがしっかり休まずに授業に参加されたからこそ、「この授業を受けて、ものの見方や考え方が広がった」と全員が答えられたのだと思う。また、Q.6 の「授業は学修成果を得るための工夫がなされている」は全員が「そう思う」と答えていることから、こちらで工夫した内容を学生の皆さんが受け止めてくださったことが分かった。他にも全員が「そう思う」とポジティブに評価されている項目が複数あった。

この授業では、音楽療法的な活動を実践的に行った。保育園での療法的音楽活動を考え、練習・実践し、高齢者施設へは、ビデオレターを作成してお渡しした。学生各々が、主体性を持ってアイデアを共有し、それを具現化するという作業が非常によくできていた。とても良いチームワークで皆さん一人一人が授業に参加できていたと思われる。これらの練習、動画撮影や編集作業を授業外で皆さんが行っていたので、その作業自体が予習復習に該当していると考えられる。

2)要望への対応・改善方策

「音楽療法アンサンブルⅡ」の自由記述に「保育園に訪問し子供と触れ合ったり、高齢者の方のことを考えてビデオレターを作ったりと実践的な授業だったのが良かったと思います。」とコメントを頂いた。1年生の後期にこのような実践的な場を設けることで、皆さんが主体的に学ぶことにつながると考えている。今後も様々な人々と交流できる機会を設けていく予定。

3)今後の課題

コロナ禍では、外部への訪問が限られていたため、ビデオレター作成が中心だったが、今年度は現地への訪問と、ビデオレターの作成、2つの異なる体験を授業で提供することができ、とても良かったことだと考えている。学生の皆さんが卒業して仕事をする際に、訪問できないから音楽療法ができない、と思わないように、柔軟な対応ができる音楽療法士になれるような指導を今後も目指していきたい。

以 上